



最後に、今回日本からは4名の子供のみの参加となりましたが、参加した子は普段の稽古に戻り、心なしか以前よりも『自信』がついて声が大きくでるようになった気がします。

今回の『青少年カナダ国際合気道キャンプ』実施の背景は、昨年5月、カナダからは Jean Rene 先生、丸1日かけてチリから来日してくれた Manuel 先生と共に、世界の子供たちが一同に集える場として、気楽な会話から始まりました。また、『キッズ・コネクション』といった試みの一環に考えられたものです。しかしながら実務はというと、実際の渡航までには、大人のイベントと違い子供たちの言葉の問題や、移動手段、稽古以外の楽しみ、金銭面、保護者に代わって引き受ける責任、健康面やアクシデントに対処する備え等、様々な協議事項と問題が山積みで、募集の時点で明確な公示ができなかったのが、次回への課題として残りました。現地のスケジュールについては、カナダの『Joji』女史が素晴らしい気配りをしてくださり、参加者全員が心底安心して楽しめたと思います。

日本から参加の子供たちにとって、なんといっても食生活の違いは新鮮な体験のようで、なかでも『Pop & Chips』(ポテトとフライドポテト)は日課となりました。朝昼晩山盛りポテトをおいしそうに頬張っていました。合気道の稽古も、指導の先生によって思いもよらぬ稽古法をとっていて、子供たちは勿論、引率の誰もが楽しめる内容でした。キャンプも半ば頃には、互いの表情や雰囲気や意思の疎通が図れるようになってきて、皆入り混じって走り回る姿もしばしば。互いの言葉や生活習慣の知識を持ち合わせなくとも、互いに触れ合いながら親しみを感ずるようになってきました。キャンプ最終日の別れ際には、別れを惜しんで涙ぐむ子も居て、それだけ身近な存在になれたのだと感じます。参加した子供たちにとつて、つかの間の楽しいキャンプではありましたが、自身で体験したことは視野を広げ、これからの彼らの成長の糧になることと願っています。また大きな意味では、多様な国際社会の中で、互いの文化や思想を考えるための一つの手立てとなれば幸いです。

Children Gasshuku in Canada Report

Manuel Diaz

During July of 2007 we had the chance to live an extraordinary and challenging experience which was to match three different cultures : Canada, Japana and Chile. Children of these countries had the opportunity to gather and practice Aikido. In and out of the tatami it was always present the cheerfulness, joy and vitality of our children. One way or the other it was always possible to share and communicate whether it was English, Japanese or Spanish. I want to share fragments of some of some thoughts, which Chilisan children expressed on the occasion:

“I relieve this trip has changed much in me. It has been a beautiful experience, it has given me reasons to practice harder, it has made my training much more pleasing, I feel now even more motivated than before...” “It has been beautiful, I met much people, I enjoyed practicing Aikido with so many different people, I realized about my rigid body and I believe I started to relax a little bit...” “I learnt many new things with the different senseis, not just techniques, but different ways of showing the practice of Aikido. I learnt to relate better and I know now better the ones with which i shared with. I have learned thingd that Hill be useful for life, not only for the practice in the tatami.” “I learnt much, as from Aikido and as from me.” “ I loved to participate in an international practice. Training with people that were different to us in several ways made me appreciate their cultures.”

I believe it is a project in which we should keep up with the effort, hopefully inviting children from other countries than the existing ones. I believe that a biannual frequency would be the most suitable for this venture. This would allow integrating more people, working out a terrific organization. I am sure that it has been planted the seed of Peace in the Heart of these children.

1年以上の準備期間を経て行われた青少年少女たちの祭典『青少年カナダ国際合気道キャンプ』は、国と国をつなぎ未来への架け橋として、大きな成功を収めました。20数名の言葉の違う子供たちは、初日こそ照れくさそうに、それぞれの国ごとにまとまって行動していましたが、互いに興味深々だったようで、次第に身振り手振りでコミュニケーションをとろうとする姿は、なんとも微笑ましいものでした。時差ぼけのせいも、興奮からか、始めの2日間子供たちはほとんど寝ずにはしゃぎまわり、引率陣はやや寝不足です。

『体験すること、成長すること』
A K I 館林 / 武田 大雄

カナダに行つて、うれしかったことは、友達ができただけです。自分から話しかけたり話しかけられたりして友達ができました。おもしろい子ばかりで、すぐに友達になれました。友達になった子の写真も撮りました。カナダでおどろいたことは山がいっぱいだったことです。山火事も多く見られました。でもやっぱり山は虫がいっぱいで、いやでした。めずらしい花も見られました。自然にかこまれているとおちつくと思っていたけれど、ハチをおいはらうのでせいいっぱいです。カナダでおもしろかったのは、人の顔です。仲良くなったアンドレス(チリから来た子)は、おどろいたりこわかったりすると、ものすごくおもしろい顔をするのです。とてもたのしいカナダでした。

『うれしかったこと、たのしかったこと』
A K I 館林 / 山崎 瑞穂 (6年)

本年7月22日から30日まで、日本・カナダ・チリの少年部の子供達がカナダ・ネルソンに集い、互いにふれ合いながら交流促進を図る『Kids' connection』の第一回合宿が行われました。日本からは武田大雄四段の下A K I 館林、逗子合気道連盟の少年部メンバーが参加、A K I カナダ・レネ先生やA K I チリ・G A I A のマニエル先生に引率された各国の少年部メンバーと楽しい日々を過ごしてきました。言葉の壁を乗り越え、帰国する当日には涙を流してさみしがる子供が出るほどに仲良くなり、国の枠を超えた少年部メンバー同士の交流、という『Kids' connection』の趣旨を十分に達成することができました。参加メンバー、大雄先生、マニエル先生のレポートをご紹介します。

The 1st Kids' connection in Canada

Sponsored by A.K.I. and AC-K

2007.7 Joint Camp of kids coming from Japan, Chile, and Canada

